

家庭学習のすすめ

初版発行 令和5年4月

第2版発行 令和6年4月

第3版発行 令和7年4月

第4版発行 令和8年5月



宇美町のすべてのこどもが、夢や希望をもって自らの人生や未来を切り拓き、心豊かにたくましく成長していくことがわたしたちの願いです。

そこで、宇美町教育委員会では目標をもって自ら学習に取り組み、確かな学力を身に付け、課題を発見し解決できるこどもを育てるため、発達段階に応じた家庭での働きかけや取組などをまとめた『家庭学習のすすめ』を作成しています。

ご家庭での学習習慣を形成するために、おこさまと保護者の皆さまとが話し合い、このリーフレットを役立てていただければ幸いです。

学習習慣の基本は『家庭』から・・・

学校教育では、国語や算数（数学）、理科、社会、外国語などの学業以外にも様々なことを学ぶことができます。例えば、規則を守ることの大切さや苦手な人がいても上手に付き合う方法など、日常の学校生活の中で学ぶことはたくさんあります。

家庭教育とは、保護者がおこさまに対して、生活していく上で必要なことを教える教育です。学校のように決められた教科書や指導方法などはなく、日常や遊び、実用的な経験を通して学んでいきます。各家庭によって、教育方針や内容が異なり、生まれてから社会で自立するまでの長い期間続く教育です。家族のふれあいや基本的な生活習慣を通して、生活能力や豊かな感性、自尊心や自立心を育みます。

【学校教育】



- ① 友だちや先生とのあいさつ
- ② 机に向かって学習
- ③ 友だちとの話合い
- ④ 係などの当番活動
- ⑤ 身の回りの整理整頓

【家庭教育】



- ① 家族や地域の人とのあいさつ
- ② 場所を決めて学習
- ③ 家族との話合い
- ④ 家庭での役割（お手伝いなど）
- ⑤ 自分のことは自分で行う



こどもが学校で学んだことや学習習慣を身に付けていくためには、家庭学習や家庭生活を充実することが重要となります。学校と家庭とが連携してこどもの成長を支えていきましょう。

『鍛える・ほめる・のばす』指導を通して 主体的に学習に取り組むことができる宇美のこどもに

福岡県教育委員会では、「鍛えて、ほめて、こどもの可能性を伸ばす」をコンセプトとした「鍛ほめ福岡メソッド」を位置付け、教育に関わるすべての指導者等が共有する福岡県独自の指導方法を示しています。

「鍛える」とは、こどもがチャレンジしたくなる状況をつくり、その気になるような工夫をすることです。また、「ほめる」ことで、こどもは努力ができる自分ややればできる自分への手応えを実感し、更なる意欲を引き出すことにつなげることができます。

この「鍛ほめ福岡メソッド」は、こどもの学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や逆境に立ち向かう心など、自律的に成長するための原動力となる人格的資質を育成するための方法です。

学校だけではなく、家庭や地域等の場においても、努力することの大切さの実感や、努力を続けたプロセス（過程）そのものを肯定的に認め合う風土づくりが重要です。

学校や家庭、地域が共働してこどもを育てていくという認識をもち、こどもが社会に出て行くための基盤づくりに努めていきましょう。



この時期の特徴

- 色々なことに興味をもちはじめ、行動の範囲が広がります。
- 仲間をつくって行動することを好み、口答えすることが増えてきます。
- 自分でやろうとすることが増えてきますが、まだ手助けは必要です。

- 国語科では新出漢字や漢字辞典の使い方、算数科では概数や角の大きさ、面積を求める問題など、新しく学ぶ内容が多くなります。
- 実験や観察、調べ学習など、友だちと協力して学習する機会が増えます。



◇家庭で大切にしたいこと◇

学習する場所や時刻、 取り組む時間を決めましょう。

- 何事も親子で話し合い、一緒にきまりを決め、約束を守ることができるように根気強く声かけをしましょう。
- テレビを見たり、ゲームをしたりする時間も話し合って決めましょう。
- ※『自分で決める（自己決定）』ことに意義があります。

励ましの言葉を たくさんかけましょう。

- できたことはどんなに小さなことでも見逃さず、たくさんほめましょう。
- 分からないことがあれば一緒に考え、課題を解決するという達成感を味わえるようにしましょう。
- ※キーワードは『鍛える・ほめる・のびす』です。

宿題以外にも、様々な学習 に取り組みましょう。

- 親子で読書をしたり、新聞記事や地域のニュース、学校での出来事などを話題に取り上げたりしながら、積極的に会話をしましょう。
- 家庭におけるおこさまの役割を決めて、最後まで役割を全うする粘り強さを身に付けられるようにしましょう。

◇こんなことをしてみましょう◇

国語科では・・・

- 学校で起こった出来事や心に残ったことなどを日記に残しましょう。
- 漢字などの練習は、筆順に気を付けて、丁寧に書く練習をしましょう。
- 分からない言葉や漢字が見つかった時には、進んで辞典で調べましょう。
- 場面の様子や登場人物の気持ちなどが伝わるよう、気持ちを込めて音読し、それを家の人に聞いてもらいましょう。
- 名前や住所など、色々な言葉を3年生で習ったローマ字で書いてみましょう。

算数科では・・・

- 筆算は位をそろえて、計算の手順を確かめながら落ち着いて計算しましょう。
- 分からない問題は、教科書やノートを見て、しっかりと確認しましょう。
- 分数の学習では、分数の意味や表し方についても理解できるようにしましょう。

その他にも・・・

- 興味があることを自分で調べてみましょう。学校図書館や地域の図書館にある本なども活用しましょう。

進んで本を読みましょう。

- 決まった曜日に読書をする時間を設定しましょう。読んだ本の感想を「読書ノート」などにまとめてみましょう。
- 次のような本を読んでみましょう。

『魔女の宅急便』

角野 栄子

『車のいろは空のいろ』

あまん きみこ

『きまぐれロボット』

星 新一

『小さなスプーンおばさん』

アルフ・プリオイセン

『チョコレート戦争』

大石 真



この時期の特徴

- 抽象的、論理的に物事を考えることができるようになります。
 - 自分が大切にされているのか、認められているのかなど、周りの評価が気になり、友だちの言動や大人の対応に敏感になります。
 - 自分を客観的に見つめられるようになるとともに、周囲に対して自分の考えを主張するようになってきます。
- *****
- 自分で課題を見付け、解決していく学習が多くなります。
 - 学習内容が多くなり、中学校での学習につながる大切な時期です。



◇家庭で大切にしたいこと◇

学習する場所や時刻、 取り組む時間を決めましょう。

- やりたいことと、やらなければならないことについて家庭でしっかりと話し合い、自主性を尊重して学習に取り組めるようにしましょう。
- 生活リズムを見直すとともに、時間を大切にする意識を育みましょう。

やる気を育てましょう。

- 親子で会話をする時間を大切に、小さなことでもほめ、成長を認めましょう。
 - 様々なことに挑戦し、できなくても頑張る過程を温かく見守り、おこさまの頑張りを励ましましょう。
- ※キーワードは『鍛える・ほめる・のびす』です。

一つ一つの学びが 深まるようにしましょう。

- ニュースを話題にしたり、読んだ本について親子で話し合ったりするなど、幅広い興味や豊かな心を育みましょう。
- 将来の夢について話をするなど、目標をもって何事にも取り組むことができるようにしましょう。

◇こんなことをしてみましょう◇

国語科では・・・

- 身近な発見や感動したことなどを短歌や俳句で表現してみましょう。また、音読は他の教科等においても、用語や内容の理解につながります。
- 学習した漢字や語句を使って詩をつくったり、短い文章を書いたりしてみましょう。
- 自分の気持ちや考えを整理しながら、心に残った出来事などを日記として残す習慣を身に付けましょう。
- 文章を書くときは、辞典を使いながら、習った漢字を使って書くことができるようにしましょう。

算数科では・・・

- 計算練習は繰り返し、毎日粘り強く取り組みましょう。
- 次の授業で学習するところを予習したり、その日の授業で学習したことをその日のうちに復習したりする習慣を身に付けましょう。
- 間違った問題は、なぜ間違えたのかを振り返り、納得するまで練習を繰り返しましょう。

その他にも・・・

- 新聞や雑誌に目を通し、興味をもった記事や気になった記事を切り抜いて集めてみましょう。

進んで本を読みましょう。

- 読んだ本の感想を「読書ノート」などにまとめたり、お家の人と感想等を話し合ったりしましょう。
- 次のような本を読んでみましょう。
 - 『太陽の子〈大長編版〉』 灰谷 健次郎
 - 『チョコレート工場の秘密』 ロアルド・ダール
 - 『二分間の冒険』 岡田 淳
 - 『シートン動物記オオカミ王ロボ』 アーネスト・T・シートン



この時期の特徴

- 部活動などで経験する縦の人間関係によって、礼儀を身に付ける一方で、対人関係や学業などによるストレスを感じやすくなります。
- 他人の目を意識し、目立つことを嫌ったり、無理に周りに合わせようとしたりします。
- 友だちの影響を強く受けるようになり、大人に対して反抗的になりがちです。

- 学習内容が高度になり、授業も教科担任制になるので、教科ごとに教員が変わることに戸惑ったり、得意・不得意な教科ができやすくなったりします。
- 定期テストが行われるようになり、学習内容の範囲が大変広くなり、学習方法や学習内容の理解等で悩むことが多くなります。



◇家庭で大切にしたいこと◇

学習環境を整え、自分に合った学習習慣や
学習方法を身に付けられるようにしましょう。

- 日々の授業を大切に、授業内容を定着させるための復習を家庭学習に取り組む際の基本とし、授業と家庭学習の取組を往還できるようにしましょう。
- 限られた時間を有効に使うことができるように目標をもち、短時間に集中して学習する方法を身に付けられるようにしましょう。
- 部屋や机の上などを常に整理整頓するなど、学習への切り替えがすぐにできるようにしましょう。

こどもの成長をしっかりと
見守りましょう。

- 心身ともに急速に成長する時期です。小さな心や体の変化を見逃さず、こどもの成長を見守りましょう。
- 学ぶことの意味や学び続けることの大切さについて話をする機会をもちましょう。

◇こんなことをしてみましょう◇

国語科では・・・

- 漢字などをこまめに復習して覚えましょう。意味の分からない語句は辞典で調べましょう。
- テーマや構成を決めて文章を書く練習をしましょう。

外国語科では・・・

- 習った語句や基本文は、繰り返しノートに書いて覚えましょう。
- 教科書の本文を声に出して読んだり、書いたりする練習を繰り返しましょう。

読書の幅を広げましょう。

- 読んだ本の感想を「読書ノート」にまとめたり、友だちと紹介し合ったりしましょう。
- 視野を広げるために、色々なジャンルの本を読んでみましょう。

数学科では・・・

- 計算問題では、必ず途中の式を書くとともに、間違いをそのままにせず、確実に理解できるようにしましょう。
- 教科書の問題をもう一度解き直したり、ワークなどで類似問題に挑戦したりしましょう。

定期テストでは・・・

- 学習計画を立て、早めに取り組み始めましょう。
- 授業でのノートやプリントなどをもとに、自分なりにもう一度整理し直して復習しましょう。

『星の王子さま』
サン・テグジュペリ
『博士の愛した数式』
小川 洋子
『夢をかなえるゾウ』
水野 敬也
『ガラスのうさぎ』
高木 敏子



この時期の特徴

- 進学などの進路決定を控え、「やらなくては」と分かってはいても、思うようにならない自分にいらだつなど、気持ちが大変不安定になりやすい時期です。
- 実力テスト等の結果に一喜一憂し、優越感と劣等感の間で揺れやすく、反抗的な言動や態度をとりがちです。

- 3年生の学習内容に加えて、1・2年生の学習内容の復習も必要となり、家庭学習で計画を立てて学習することがこれまで以上に重要になります。
- 将来を見据えた目標をもつことが大切になります。学校では、その目標を見据えた進路を選択するための進路相談などを行います。



◇家庭で大切にしたいこと◇

計画的に時間を使う習慣を身に付けさせましょう。

- 部活動を引退し、放課後などの自由な時間が増えると、時間を計画的に使うことがより大切になります。集中して学習に取り組むことができるように、趣味の時間や気分転換の時間をつくるなど、自分に合ったスタイルを身に付けられるようにしましょう。
- スマホ等の利用については家庭でルールを決め、睡眠時間を確保するなど、時間の使い方を考えるようにしましょう。
- 学習したことを定着するためには、何度も繰り返し学習することが重要です。まとめ方を工夫するなど、保護者の経験も交えて、継続することの大切さを伝えましょう。

会話を大切にしましょう。

- 家族の支えがとても大切になる時期です。食事の時など、会話の時間をできるだけ多くつくり、色々なことを話すようにしましょう。
- 保護者もおこさまが取り組んでいることに関心をもち、進路決定に向けて生じるおこさまの悩みを共有しましょう。

◇こんなことをしてみよう◇

苦手教科の克服にこそ
時間を割きましょう。

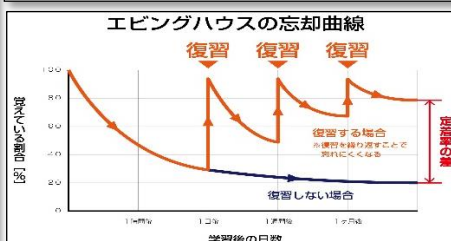
- 苦手な教科こそ繰り返し取り組み、苦手を克服するようにしましょう。友だちや先生にアドバイスを求めると克服のヒントが見つかるものです。

長期の休業では・・・

- 夏休み中は、時間をかけて1・2年生の学習内容の振り返りをする絶好の機会です。
- 冬休みは、自分の進路に応じて学習方法を工夫し、計画的に学習に取り組みましょう。

あきらめずに継続しましょう。

- 授業などで学習したことは、復習に取り組むことによって定着を図りましょう。
- 復習は、学んだ直後の方が学習内容の定着に対する効果が高いと言われています。
- 繰り返し復習することで、忘れる量が減り、長く記憶することができます。



自分の心に残る一冊
を見つけましょう。

- 読書は、学習の気分転換だけではなく、不安や悩みの解決や新たな考えや発見につながる場合があります。
- 次のような本を読んでみましょう。
『きみの友だち』 重松 清
『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス
『旅に出よう』 近藤 雄生
『竜馬がゆく』 司馬 遼太郎

